

「第3次札幌市食育推進計画」(案)に対する 市民意見の概要と札幌市の考え方

札幌市では、「第3次札幌市食育推進計画」(案)について、市民の皆様からのご意見を募集いたしました。

このたび、お寄せいただいたご意見の概要とそれに対する札幌市の考え方をご報告いたします。なお、ご意見は、その趣旨が変わらない程度に取りまとめ、要約して示しておりますことをご了承ください。また、計画案と直接関係がないご意見、お名前等の記載のないご意見については、公表しておりません。

市民の皆様から寄せられた貴重なご意見を参考にしながら、今後とも市民の皆様が健やかで豊かな食生活を送ることができるよう食育を推進してまいります。

平成30年(2018年)3月 札幌市保健所健康企画課

札幌市中央区大通西19丁目 WEST19

電話 011-622-5151 FAX 011-622-7221

<http://www.city.sapporo.jp/hokenjo/syokuiku/keikaku/dai3zikeikakuann.html>

1 意見募集実施の概要

(1) 意見募集期間

平成29年12月11日(月)～平成30年1月10日(水)

(2) 意見提出方法

郵送、FAX、Eメール、ホームページ上の意見募集フォーム、持参

(3) 資料の配布・閲覧場所

- ・市役所本庁舎市政刊行物コーナー
- ・札幌市保健所健康企画課
- ・各区役所(総務企画課広聴係)
- ・各区保健センター
- ・各まちづくりセンター健康づくりセンター
- ・子育て支援総合センター
- ・札幌市立各小・中・高・特別支援学校
- ・札幌市内児童会館
- ・札幌市ホームページ

2 意見募集の結果

(1) 意見提出者数・意見件数

ア パブリックコメント(大人の意見) 9名、21件

イ キッズコメント(子どもの意見) 110名、178件

(2) 年代・提出方法別内訳

		総数	郵送	F A X	Eメール	持参
大人の意見	10歳代	4	4			
	20歳代	0				
	30歳代	1			1	
	40歳代	3	2	1		
	50歳代	1			1	
	60歳代	0				
	70歳以上	0				
	小計	9	6	1	2	0
子どもの意見	小学5年生	6	6			
	小学6年生	53	3	12		38
	中学1年生	14	9	5		
	中学2年生	29	27	2		
	中学3年生	8	8			
	小計	110	53	19	0	38
総計		119	59	20	2	38

(3) 意見内容別内訳

項 目		件 数			構成比
		大人	子ども	計	
第1章 計画の策定にあたって				0	0%
第2章 前計画の取組と評価		9	14	23	12%
第3章 基本理念と基本目標				0	0%
第4章 施策の体系と展開		12	67	79	40%
再掲	行動計画全体		25	25	13%
	1 健やかで心豊かな食生活の実現	6	26	32	16%
	2 食の循環や環境・安全を意識した食生活	6	11	17	9%
	3 食文化の継承と食育推進体制の整備		5	5	3%
第5章 計画の推進			4	4	2%
計画全体			31	31	16%
その他			62	62	31%
合計		21	178	199	100%

■パブリックコメント(大人の意見)概要とそれに対する札幌市の考え方

意見の概要	市の考え方
第2章 前計画の取組と評価 2 前計画の取組	
<p>○「さっぽろオータムフェスト」の広告が少ないと思う。</p>	<p>イベントのPRを強化するとともに、あわせて地産地消や北海道・札幌の食ブランドの向上を促進させ、またそれを広く市民に周知を図ってまいります。</p>
第2章 前計画の取組と評価 4 札幌市の食育の現状と課題	
<p>○食育に関心のある人が少ない。関心を持てるような活動をするべき。</p>	<p>ご意見のとおり、本市における食育に関心のある人の割合は、全体で約7割に満たず、特に若い世代や男性の関心が低い傾向にあります。</p> <p>このような現状を踏まえて、本計画では「若い世代を中心とした食育の推進」を重点取組に位置付け、新たに企業等の協力を得ながら健康的な食生活の普及啓発を進めるほか、毎月の野菜の日、栄養の日、食育の日などを活用し、食生活を見直す機会を増やすなど、市民の食育への関心を高める活動に取り組んでまいります。</p> <p>また今後も、市民の食に関する課題解決のため、食育への関心が高まるような取組、啓発方法について、さらに検討していきたいと思っております。</p> <p>ご意見を踏まえ、P54に一部記述を追加します。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【修正前】 毎月の野菜の日、栄養の日、食育の日などを活用し、啓発を行います。</p> <p>【修正後】(下線部を追記) <u>食育への関心を高め、食生活を見直す機会として、</u> 毎月の野菜の日、栄養の日、食育の日などを活用し、啓発を行います。</p> </div>
<p>○男性に向けた料理教室等を開けば良いと思う。</p>	<p>本市では、男性向けの料理教室や、男女が共に協力して食事づくりや後片付けなどを行う講座を開催したり、男性料理サークルへの調理指導を行うなど、男性の食事づくりへの支援を行っており、本計画においても、「男性が食事づくりにかかわる機会の促進」として取組に位置付けております。</p>
<p>○学校では給食を通して充分食育を行っているので家庭の問題。</p>	<p>子どもへたちの食育の推進に当たっては、学校での指導の充実とともに、家庭との連携が重要であると考えま</p>

	<p>す。</p> <p>今後も、児童生徒が健康と食生活のかかわりについて理解し、望ましい食習慣を身につけていくことができるよう、各種お便りや給食試食会等を通じて、児童生徒の現状や課題について家庭と共通理解を図り、連携した食育に努めてまいります。</p>
<p>○「③健康寿命の延伸と食育について（図4 食塩制限の降圧効果）」について、17年前の古いデータを基にした、誤った学説に依存すべきでは無い。近年の研究では、高血圧の真犯人は「塩分」ではなく「脂肪」とされる。高血圧をもたらすのは血管に溜まったプラーク（脂肪の塊）であり、これが溜まって血管の内側が狭くなるので、そこを流れる血液の圧力が高まるのが理由である。塩分を理由にしたいのは、降圧剤を販売したいが為の、製薬業界からの利権によるもの。霜降り肉やハンバーガーの摂取を控えるべきである。また、スポーツなどにより運動量が多い人は、塩分を多めに摂取しないと新陳代謝が低下する。</p>	<p>ご意見のとおり、飽和脂肪酸やコレステロールは血圧を上げる方向に作用する可能性があり、また、脂質過多の食事は肥満を介して高血圧のリスクとなります。</p> <p>ナトリウム（食塩）についても、過剰摂取が血圧上昇と関連があることは多くの研究によって指摘されているところです。</p> <p>これらのことから、本市においては、健康寿命の延伸につながる食育の推進として、望ましい食習慣と適切な栄養摂取をすすめる取組や栄養バランスのとれた食生活の実践の取組の中で、適切な塩分量を学ぶ機会を増加し減塩習慣を身につけていただくと共に、脂質の摂りすぎにも注意していただけるよう啓発してまいりたいと思います。</p>
<p>○家族との食事が食育の一番大切なことだと思っている。</p> <p>○孤食をやめるよう促す活動をすればよいと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、家族が食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションを図ることは食育の原点であり、大切なことだと考えています。しかしながら、世帯構造や社会環境が変化し、単身世帯やひとり親世帯等が増え、家庭生活の状況が多様化している中、家族との共食が難しい人も増えています。</p> <p>家族はもちろん、友人や職場の仲間、地域の人などとの共食の機会が増え、コミュニケーションや豊かな食体験につながるよう、様々な機会を通じて共食の啓発・共食の場の情報提供を行ってまいります。</p>
<p>○子ども食堂への支援をもっと呼びかけるべき。</p>	<p>今年度、市内の子ども食堂をはじめとする地域における子どもの居場所づくりの取組について実態調査・研究を進めているところです。これに基づき作成したガイドブックを活用し、利用や開設に向けた活動紹介や情報提供を進めるとともに、広く利用や参加、支援の機運醸成を図ります。</p>
<p>○ごみを減らすように呼びかけるべき</p>	<p>これまで、札幌市一般廃棄物処理基本計画「スリムシティさっぽろ計画」に基づき、ごみの減量に向けたさまざま</p>

	まな啓発を行ってきたところです。ごみの一番少ないまちを目指すため、今後ごみの減量について啓発を続けていきます。
第4章 施策の体系と展開 II 施策の展開（行動計画） 1 健やかで心豊かな食生活の実現	
(1) 健康寿命の延伸につながる食育の推進	
○子どもたちへの食指導がますます進められることを期待する。	今後も学校においては、栄養教諭が中核となって教職員と連携を図り、学校教育活動全体で食に関する指導の充実に努めてまいります。 また、保育所等においては、食事の提供を含む食育計画に基づいて、保護者や多様な関係者と連携・協働し、子どもたちの健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け食育を推進してまいります。
(2) 若い世代を中心とした食育の推進	
○朝が一番大事なので、「朝ごはん食べよう」を広める。 ○朝は食欲の有無に関らず、その日一日の活動を促進するために食べるべきだと思う。また、高校生は成長期で、人生の健康に過ごせる時間の長さが決まる時期と言っても過言ではないことと、ストレスを感じやすい社会になっているので、それを少しでも自己解決するためにバランスの良い栄養をとることも大切だと思う。具体的には、前日のうちに朝ごはんをつくる、朝は毎日同じものを食べるなど。 ○朝は時間がなくあまり食欲がない人もいるので、食べやすく、時間がかからないレシピなどをネットや目につきやすいところに掲示するのはどうか。	本市ではこれまで、学校、保育所、各区保健センター等において、早寝・早起き・朝ごはん推進事業として朝食の重要性と規則正しい生活習慣を身につけるための普及・啓発を行ってきました。 しかしながら、依然として、小学生の朝食欠食率が減少していないこと、また、20～30歳代の若い世代が他の年代と比較して朝食欠食率が高いことなどから、啓発方法の工夫・強化の必要があると考えており、引き続き保護者に対する啓発・情報提供を行っていくほか、新たに手軽にできる朝食の普及・啓発のためのレシピ集の発行、「高校生のための食生活指針」の配布等に取り組んでいくこととしております。 また、市ホームページや各区のホームページには、朝食レシピや朝食準備の時間短縮・朝食を食べる習慣づけのためのポイント等を掲載しております。 今後も、より多くの市民の方々に役立つ情報の発信に努めてまいります。
○大型スーパー等で野菜を多くとる食生活の普及啓発を進めることはとても良いと思った。	大型スーパー等は、市民の方々が日常的に利用する身近な場所であることから、これまで食育にあまり関心がなかった方にも食育に触れていただく機会となり、食に関する知識や意識を高めるきっかけ作りにつながると考えております。 食育の取組を効果的に進めていくため、企業等と連携し、健康的な食生活の普及啓発を行ってまいります。
(3) 多様な暮らしに対応した食育	
○柔軟剤などの香料により健康被害を受け	合成香料等に反応し、体調不良の症状が現れることにつ

<p>ている児童・生徒に関する配慮が欠落していることを残念に思う。栄養価の高い給食でも、教師の衣服の柔軟剤臭が強く香料臭が充満する教室で食べる給食は、タバコの煙が充満する部屋で食べているのと同じく有害である。</p>	<p>きましては、学校生活全般を通して配慮すべきことであるため、教職員を対象とした研修や学校あての各種通知を活用しながら引き続き周知に努めていきます。</p>
<p>第4章 施策の体系と展開 II 施策の展開（行動計画） 2 食の循環や環境・安全を意識した食生活</p>	
<p>(1) 環境に配慮した食生活の推進</p>	
<p>○ごみと食育は別。ごみはその分野で考えるべき。</p>	<p>家庭から出る生ごみの約20%は、食べ残しや手つかずのまま捨てられている食品、いわゆる「食品ロス」です。食品ロスの削減は、食材の購入や調理、食べきりなどの消費行動すべてに関わる問題であるため、食育と連携した啓発が大切であると考えています。</p>
<p>(2) 「食」の安全・安心の確保の推進</p>	
<p>○福島第一原発事故以後、日本政府は食品に含まれる放射能汚染値の基準を事故前の50倍に高めている。世界中の多くの国々で、東北・関東産の農産物や海産物が輸入制限されている現実を直視すべきである。 人工甘味料や化学調味料は神経毒であり、てんかん、引き付け、目眩、頭痛、味覚障害等を発症する。トランス脂肪酸はアレルギーの原因となる。食品添加物への知識を養うべきである。</p>	<p>市内に流通する食品については、放射性物質や食品添加物などの検査を実施し、その結果をホームページ等で公表しております。 また、食の安全に関する知識については、リーフレット等で市民にお知らせしております。</p>
<p>(3) 農業を身近に感じる都市環境の実現</p>	
<p>○札幌市の高校・中学校に農業体験の場を設けるとよいと思う。</p>	<p>市立の中学校、高等学校においては、稲作や畑作の農業体験等を通して、食に関する正しい知識や、自然の恩恵・勤労への感謝の心などを育てているところです。今後も食育の推進につながる体験活動の充実を図っていくよう努めてまいります。</p>
<p>○食べ物の大切さを実感する農業体験などは、食育推進には必要だと思うので、続けていただきたい。</p>	<p>民間事業者、農業者によって農業体験の取組が行われていますが、札幌市の公の施設さとらんどにおいても収穫体験等の機会を提供しており、今後も続けていく予定です。</p>
<p>○アレルギー体質の市民・子供が、農薬や殺虫剤を用いている農園に入るのは、アレルギー症状を悪化させる。無農薬・無殺虫剤の農園に限定すべき。</p>	<p>全ての方が安心して「農」とのふれあいを行うことができるよう、関係団体とともに環境に配慮した農業の普及指導に努めてまいります。</p>
<p>○北海道産の食品を使う都道府県が多いの</p>	<p>札幌市では、「さっぽろとれたてっこ」認証制度により</p>

<p>で、もっと地産地消した方がよい。</p>	<p>地産地消を推進しております。札幌産農畜産物の市内消費拡大につながるよう、今後も努めてまいります。</p> <p>また、北海道産の食品を使うことにより北海道の産業振興に寄与することや、フードマイレージの観点から環境にも良いこと等を、市民の皆様のご理解をいただきながら、地産地消の食育活動を進めてまいります。</p>
-------------------------	---

■パブリックコメント(子どもの意見)概要とそれに対する札幌市の考え方

意見の概要	市の考え方
<p>第2章 前計画の取組と評価 4 札幌市の食育の現状と課題</p>	
<p>○札幌市民の現状（小学5年生の朝食摂取・野菜摂取量・小学5年生の共食）が全て目標値に届いていない。</p> <p>（類似意見3件）</p> <p>○朝食を毎日欠かさずとる小学5年生の割合が低く、驚いた。生活習慣の改善を呼びかけ、みんなが朝食を毎日食べられるようになるとよい。</p> <p>（類似意見8件）</p>	<p>本市ではこれまで、学校をはじめとして、保育所、幼稚園、各区保健センター等において、朝食摂取、野菜摂取、みんなで楽しく食べる共食の啓発を行ってきましたが、ご意見のとおり、全て目標値には達していません。</p> <p>このような状況を踏まえて、本計画においても引き続き課題として認識し、望ましい食習慣と適切な栄養摂取、栄養バランスのとれた食生活の実践、楽しく食卓を囲む機会の拡大に向け、取組を推進してまいります。</p>
<p>○最新のデータを入れたり、学年も入れるとよい。</p>	<p>札幌市民の現状については、現在公表されている最新のデータを使用し、グラフ化しています。</p> <p>なお、特定の学年のみを対象とした調査であるため、学年別のグラフはお示しできませんのでご了承ください。</p>
<p>第4章 施策の体系と展開 II 施策の展開（行動計画）</p>	
<p>○「食育」とは、小さなころからしっかりした食事をする事ではないか。計画を見たところ、保護者に対するアピールが少ないように思う。学校のみでなく、他様々な場でも食育をより活発に広めていただきたい。</p>	<p>学校では、給食だよりや給食試食会等を活用し、家庭への情報提供に努めてまいります。また、ホームページや「学校給食展」の機会を捉えて、広く市民の皆様へ学校給食や食育の取組についての情報提供を継続して行ってまいります。</p> <p>また、保育所等では、子どもたちへの食事の提供を含む食育の推進と、子育て支援や給食だより・展示食など保護者との日常的な連携の中で、より食育を推進していきます。</p> <p>さらに、各区で開催する乳幼児健診においても、小さな子を持つ保護者に向けて、毎日の朝食摂取など望ましい食習慣について啓発しています。</p> <p>今後も、より実践につながるよう様々な場面で保護者に</p>

	<p>働きかけてまいります。</p> <p>ご意見を踏まえ、P32に一部記述を追加します。</p> <p>【修正前】 (記載なし)</p> <p>【修正後】(『○適切なエネルギー量や塩分量を学ぶ 機会の増加』に以下の取組を追記) 給食だよりや給食試食会などを通じた保護者等への啓発</p>
<p>○そうならない、できない理由まで深くつきつめる計画が少ない。例えば、朝食を欠食する小・中学生は「朝食を食べないことが体や脳に良くない」ことを知らず、おそらく「朝は時間がない」「食欲がわからない」という理由があるのではないか。では、いかにして朝の時間を増やすかという、その先の手段まで考えることが、この計画を推進するもっとも良い方法なのではないか。1人でも多くの人々が食事の時間を楽しめる社会になってほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、目標値に達していない理由を探り、その課題を解決できるような取組を実施していく必要があると考えます。また、朝食を食べることのメリットをもっと多くの人に知らせていく必要があると考えます。平成28年度に行った調査結果から、朝食を食べない最も大きな理由が「時間がない」であったことから、手軽にできる朝食の普及・啓発のために簡単レシピ集の発行を取組に位置付けていますが、朝食を食べることの大切さ(メリット)も盛り込みます。今後も現状把握に努め、さらに効果的な啓発方法を検討し、笑顔が広がる街づくりにつながる食育を推進してまいります。</p>
<p>○まずは多くの人に食育を身近に感じてもらい、興味・関心を持ってもらうことが大切だと思う。また、計画(食育の取組内容)があまり浸透していないため、この計画を多くの人に知ってもらえるような活動をするとうまいと思う。このパンフレットを読んでたくさん感じるがあったので、広めれば1人1人の意識が高まってより良い札幌になると思う。</p> <p>(類似意見12件)</p> <p>○食事の大切さを伝えるために、学校や市役所などで食に関する授業や講座を行うとうまい。</p> <p>(類似意見3件)</p> <p>○食育をさらに広めるため、ビデオを作った</p>	<p>学校では、栄養教諭が中核となって教職員が連携を図り、給食時間や関連する教科において食に関する指導や授業を行っています。今後も充実を図るよう努めてまいります。</p> <p>また、より多くの市民の方々が食育に関心を持ち、健やかで豊かな食生活を送ることができるよう、保育所や幼稚園、地域のほか様々な場所で、食に関する知識の普及啓発や情報提供を行ってまいります。</p> <p>広報の具体的な方法に関するご意見については、事業展開にあたり参考とさせていただきますが、ホームページへの掲載や、わかりやすい概要版の作成・配布等を通じて、計画の内容や食育の取組の普及啓発を進めてまいります。</p>

<p>り、CMで簡単にわかる食育について公開したり、手軽に見ることのできる YouTube をその広告に使うのはどうか。自分たちが参加できる取組や身近な食育を紹介するプリント等を配るのも良い。</p> <p>(類似意見 2 件)</p> <p>○札幌市が食育について様々な取組をしていることが分かった。自分も参加したりサポートしたい。</p> <p>(類似意見 2 件)</p>	
第 4 章 施策の体系と展開 II 施策の展開 (行動計画) 1 健やかで心豊かな食生活の実現	
(1) 健康寿命の延伸につながる食育の推進	
<p>○いろいろなライフスタイルがあるため、食事の時間や回数を決めることは難しいが、バランスよく食べることを心がけるべきだと思う。</p> <p>(類似意見 2 件)</p> <p>○毎日栄養バランスを考えてご飯を作るのは、とても大変だと思った。</p>	<p>栄養バランスのとれた食生活の普及啓発のために、主食・主菜・副菜を揃える食事の啓発、野菜摂取強化の取組等を進めてまいります。</p> <p>また、知識が実践につながるよう、レシピ集の作成・配布、料理講習会の開催等にも引き続き取り組んでまいります。</p>
<p>○計画の中の「学校教育活動の全体を通して朝食の大切さなどを伝える食指導をすすめる」取組を増やしていけばよいと思う。</p> <p>○学校で朝食の大切さなどを書いたファイルを配ったり、夏・冬休みに朝食を食べたか調べるチェック表を配るとより効果的だと思う。</p> <p>○朝食を食べてもらうために、学校はもちろん、スーパーや商店街などでも呼びかけると良い。</p> <p>(類似意見 1 件)</p>	<p>学校教育活動全体を通じて、朝食の大切さをはじめ、望ましい食習慣や健康の維持増進等に係る取組を継続的に進めてまいります。</p> <p>今後も、ご意見を参考とさせていただき、指導教材や啓発資料、啓発場所につきましても工夫をし、充実を図るよう努めてまいります。</p>
<p>○札幌市の小・中学生は運動量も少なく野菜摂取量も不足しているため、肥満にもつながると思う。野菜や果物の摂取量を増やす活動をさらに活発化して欲しい。</p> <p>(類似意見 1 件)</p> <p>○野菜摂取量の目標量が中学生から 350 g 以上だが、バランスよく量を食べるのは難しい</p>	<p>学校給食や食に関する指導を通じて、野菜摂取の必要性や野菜をバランスよくとる工夫等について、啓発に努めてまいります。</p> <p>また、啓発方法の具体的なご意見は、今後の事業の参考とさせていただきます。</p>

<p>と思う。</p> <p>○ポスターも良いが、町内会の回覧板の中に野菜摂取のメリットや野菜を食べなければどうなるかなども伝えるプリントを入れると良いと思う。</p> <p>(類似意見 1 件)</p>	
<p>(2) 若い世代を中心とした食育の推進</p>	
<p>○高学年や中学生向けの食育体験や料理教室などを増やしてほしい。また「親子料理教室」だけでなく「兄弟」や「友達」などを対象とした料理教室も開いて欲しい。</p> <p>(類似意見 1 件)</p>	<p>いただいたご意見は、今後の事業の参考とさせていただきます。</p>
<p>(3) 多様な暮らしに対応した食育</p>	
<p>○共食を大事にしたい。楽しく食事をする、またコミュニケーションの場として、1人つきりで食事を摂るのと複数人で食事を摂るのでは、気持ちの面で全く違う。</p> <p>(類似意見 4 件)</p> <p>○食事は家族とした方がよい。各家庭でもっと注意をしてほしい。</p> <p>(類似意見 1 件)</p> <p>○時代背景として、共働きの家庭が多いなど家庭の事情があったり、中・高校生は塾や部活で忙しいので、共食が難しい場合もある。手軽に調理できる食品の開発も必要だと感じた。</p> <p>(類似意見 1 件)</p> <p>○できるだけ家族や友達と一緒に食事をするのを心掛け、共食をする機会を増やすことが大切。学校給食で班隊形にすることも共食を増やしていくことになると思う。</p> <p>(類似意見 1 件)</p>	<p>ご意見のとおり、家族が食卓を囲んで共に食事を取りながらコミュニケーションを図ることは食育の原点であり、大切なことだと考えています。</p> <p>しかしながら、世帯構造や社会環境が変化し、単身世帯やひとり親世帯等が増え、家庭生活の状況が多様化している中、家族との共食が難しい人も増えています。</p> <p>家族はもちろん、友人や職場の仲間、地域の人などとの共食の機会が増え、コミュニケーションや豊かな食体験につながるよう、様々な機会を通じて共食の啓発・共食の場の情報提供を行ってまいります。</p> <p>また、市立の小中学校の給食では、子どもたちが、食事のマナーを守り、友達との会話を楽しみながら食事ができるように、座り方を工夫したり、ランチルームで他学年、他学年との交流給食を行ったりしています。これからも、食事の大切さや食べる喜び、楽しさを感じられる給食になるようにしていきます。</p>
<p>第 4 章 施策の体系と展開 II 施策の展開 (行動計画) 2 食の循環や環境・安全を意識した食生活</p>	
<p>(1) 環境に配慮した食生活の推進</p>	
<p>○フードリサイクルの活動はとても良いと思うのでこれからも続けてほしい。</p> <p>(類似意見 2 件)</p>	<p>「さっぽろ学校給食フードリサイクル」の取組は、生産者の方をはじめ多くの関係団体の皆様にご協力をいただき実施している事業であり、今後も継続していきま</p>

<p>○フードリサイクルや生ごみ減量の取組をもっとたくさんの人に知ってもらい、少しでも食べ残しが減ってほしい。</p> <p>○年間に 2 万 3000 t もの食品ロスが産まれているので、もっと食べ物に感謝し、大事にするべきだと思う。</p>	<p>す。また、この事業をホームページや出前講座、給食試食会、リーフレット（啓発資料）の配布等、様々な機会を捉えて広く市民に啓発してまいります。</p> <p>また、食品ロスの削減は、ごみとしての観点だけではなく、食育や環境教育といったさまざまな観点から多角的に取り組むことが重要であると考えています。そのため、食育を通じて食べ物に感謝し、大事にする心を育んでいきたいと考えています。</p>
<p>○野菜などの捨てる部分を使った料理の紹介が見たい。</p>	<p>札幌市ホームページで「生ごみダイエットレシピ」を紹介しているほか、公式 Facebook ページ「さっぽろゴミコミュニケーション」内で、余りがちな食材を使用したレシピや使いきりレシピなどを紹介しています。野菜の皮などの捨てる部分を使用したレシピも掲載していますので、ぜひご覧ください。</p>
<p>(2) 「食」の安全・安心の確保の推進</p>	
<p>○食品の安全性に関する知識のある市民の割合が低いので、さっぽろ子どもGメン体験事業や食の安全や衛生についての啓発、講習会を開くなど、知る機会を増やすと良いと思う。</p> <p>(類似意見 1 件)</p>	<p>知る機会の充実のため、これまで、子ども向けの「さっぽろこどもGメン体験事業」のほか、一般向けに農家や食品工場などの見学を行う「さっぽろ食の安全・安心市民交流事業」などの事業を実施しています。</p> <p>また、さっぽろ子どもGメン体験事業については、エコチル（子ども環境情報誌：市内公立小学校で毎月配布）を活用して、広く参加者の募集や事業紹介を行ってまいります。</p> <p>ご意見を参考に、今後も事業の充実をはかり、知る機会を増やしてまいります。</p>
<p>(3) 農業を身近に感じる都市環境の実現</p>	
<p>○食に関する感謝の心を深めるため、農業・漁業に関わる仕事への関心を高めるような活動（親・子供に）を、もっと身近な場所で行って欲しい。</p> <p>○小学生等が「農」から少しずつ離れてきていると感じた。「子ども学習農園」で「農」にふれ、そこで食育学生ボランティアの力も借り、小学生に食育について説明することで、もっと食育に対して興味を持ってもらうことができるのではないかと思います。</p> <p>○『若い世代に対する「農」体験の啓発』に関して、幼児や小学校低学年向けの体験はか</p>	<p>農業・漁業への関心を高める活動を身近な場所で行うことが大切であると考えています。札幌市のような大都市の場合、農業に触れる機会が少なくなりがちのため、農業体験交流施設「さとらんど」へ多くの方々に来場していただけるように取り組んでまいります。</p> <p>なお、農業体験交流施設「さとらんど」では、小さなお子様からお年寄りの方まで幅広い世代の方々が農業体験をしていただけるので、学校等への情報提供を継続してまいります。</p> <p>また、「子ども学習農園」についても、より多くの方々に利用していただけるように広報するとともに、学校等への情報提供を継続してまいります。</p>

<p>なり多く思えるが、高学年・中学生向けの体験が少ないと思う。</p>	
<p>第4章 施策の体系と展開 II 施策の展開（行動計画） 3 食文化の継承と食育推進体制の整備</p>	
<p>(1) 食文化の継承と食環境整備</p>	
<p>○伝統的な食文化は、その場所と何の関係があるかなどを伝えると良い。小学生はおそらく北海道産の食品は関係ないと思っているので、北海道食品の良さを伝えると良いと思う。</p> <p>○普段家で郷土料理など食べることがないので、学校でこのような機会があってもいい。</p>	<p>伝統的な食文化の知識を深める食育を進めます。また学校給食では、今後も地産地消の取組や日本や地域を学ぶ献立を多く取り入れ、北海道産食品のよさや郷土料理などの食育に努めてまいります。</p>
<p>○学校におけるアレルギー対応では、アレルギーを持つ児童への対応だけでなく、周りの子にも指導するべきだと思う。特に小学校低学年の子供はアレルギーの子を見て「なんであの子だけちがうの？」と疑問を持つので『学校全体』という曖昧な表現ではなく、『児童を含め、学校全体』とするとよくなると思う。</p>	<p>「学校全体」には、児童生徒も含まれます。今後も、食物アレルギーを持たない児童生徒の理解も深められるよう努めてまいります。</p>
<p>(2) 「さっぽろ食スタイル」の推進</p>	
<p>○さっぽろ食スタイルを初めて知った。すばらしいプロジェクトなので全道民に知ってもらいたい。</p>	<p>「さっぽろ食スタイル」は、第2次札幌市食育推進計画策定時より提案し、普及してきた本市独自の取組ですが、「初めて知った」とのご意見のとおり、まだまだ市民に浸透していないのが現状です。まずは、より多くの市民がこの「さっぽろ食スタイル」について理解を深め、栄養バランス・地産地消・環境に配慮した食生活を実践できるよう、一緒に取り組んでいきましょう。</p>
<p>○地元の食材が野菜などであれば買う人もいますが、精肉などは安い外国産を買う人が多いと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、品目や時期によっては、地元産の食材が入手できない、または外国産の方が安価に購入できる場合もあり、必ずしも札幌産や北海道産の食材を利用できるとは限りません。しかし、特に20～30歳代の若い世代は、半数以上が自身の地元産食材の利用状況が「わからない」と回答しており（本書26頁、図31）、産地にこだわらず食品を選択していることがうかがえます。これらのことから、地産地消に対する意識を高めていくことが必要と考えます。</p>
<p>第5章 計画の推進 1 計画の推進にあたっての指標</p>	

<p>○指標に対する目標値が少し高いので、少しずつ上げた方が良くと思う。現状値が目標値に対してどれだけ足りていないのかも書いた方が良く。</p>	<p>本計画の指標の目標値設定に当たっては、国の「第3次食育推進基本計画」や、札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ 21（第二次）」等、関連する計画の考え方に基づいております。計画最終年となる 2022 年度に向けて、目標値を達成できるよう、取り組んでまいりたいと思います。</p> <p>現状値と目標値の記載方法については、今後、本計画の内容を周知していく際に、年代等に応じたわかりやすい内容とするうえでの参考とさせていただきます。</p>
<p>○目標を達成するにはどういうことをすればいいかを書くが良い。</p>	<p>計画本書では、目標を達成するために各関係部署が今後取り組んでいく内容をより細かく記載しています。</p>
<p>○朝食を食べることで気分を悪くしてしまう人や朝遅く起きて朝食を食べない人がいるため、朝食を欠食する子どもを0%にするのは難しいと思う。</p>	<p>朝食摂取は生活習慣とも密接な関係があり、早寝早起きなど毎日の生活リズムを整えること、まずは飲み物や果物だけでも口にする習慣を付けることが必要です。</p> <p>小学生の朝食欠食率減少のためには、朝食の大切さについて、保護者や子どもたち自身に、繰り返し伝えていく必要があると考えます。</p>
<p>○計画推進における役割では、やるべきことと期待することが明確に記されていたのが良い。家庭や学校などの役割では「食」に対する関心や大切さなどはどのようにして深めていくのか、具体例を見てみたかった。</p>	<p>学校における具体的取組は、計画本書により細かく記載していますので、興味がありましたらご覧ください。</p> <p>家庭での食育の具体例については、今後の事業展開において、様々な場面で分かりやすく情報発信していきたいと思っております。</p>
計画全体	
<p>○子どもにも読みやすい、興味を引く内容（例：給食キャラクター、クイズ、4コママンガ）やレイアウトにしてほしい。 （類似意見 22 件）</p> <p>○嫌なイメージの言葉（○○してはいけない）ではなく、良いイメージの言葉（○○するといい）を多くすると良い。</p> <p>○キャラ弁の作り方を載せると良い。 （類似意見 4 件）</p> <p>○朝食おススメのメニューなどを載せてもよいのでは。</p> <p>○これからは野菜をしっかりと食べるよう意識したいので、野菜をたくさん食べられるメニューが知りたい。</p>	<p>小・中学生向けの資料作成の際には、いただいたご意見を参考にさせていただき、分かりやすく、興味を引く内容となるよう努力いたします。</p> <p>また、朝食おススメメニュー、野菜がたくさん食べられるメニュー、減塩メニューなどのレシピ集は、市ホームページや各区のホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。</p>

その他	
<p>○食についての学び、気づきがあった。今後自身や家族の食生活を見直したり、自分たちにできる食育を实践したい。 (類似意見 56 件)</p> <p>○資料がわかりやすかった。 (類似意見 4 件)</p>	<p>市民一人ひとりが「食」に関心を持ち、積極的に「食育」を推進していくことが、本計画推進のポイントと考えます。</p> <p>今後も、より多くの市民の方々に役立つ情報の発信に努めてまいります。皆さんもぜひ一緒に取り組んでいきましょう。</p>

市政等資料番号
 01-F06-17-2420